

上尾市立東町小学校 学力向上プラン「グランドデザイン」

学校教育目標

自ら学ぶ意欲をもち、心豊かなたくましい東っこ
～進んで学びよく考える子、きまりを守り助け合う子、
最後までがんばる子、明るい元気な子～

学校課題研究主題

「学習や生活の見通しをもち、
粘り強く取り組む児童の育成」
～確かな見通しを生む環境づくりと、
互いを高め合う対話的活動の充実を目指して～

学力・学習状況調査の結果

R7 全国学力・学習状況調査	R7 埼玉県学力・学習状況調査	R7 上尾市立小・中学校学力調査
<ul style="list-style-type: none"> ・全体の傾向として、全国平均と同程度だが、県平均を2ポイント下回る。特に思考力や表現力が課題である。 ・国語は県平均を2ポイント下回った。文章を読み解く力はあるが、記述する力に課題がある。 ・算数は全国・県平均を4ポイント下回り、最も課題が大きい。特に記述式の問題に課題がある。 ・理科は全国平均を3.1ポイント、県平均を4ポイント下回った。実験結果の考察や記述力に課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語では、5・6年生が県平均を3～4ポイント上回り、4年生はほぼ同水準だが0.48ポイント下回った。課題となる領域として、4年生は「読むこと」、5年生は「話す・聞くこと」、6年生は「書くこと」が挙げられる。 ・算数では、5年生が県平均を上回り、6年生はほぼ同水準、4年生は1.39ポイント下回った。課題となる領域として、4年生は「図形」、5年生は「測定」「図形」、6年生は「データの活用」が挙げられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語は全学年で全国平均の前後を維持しており、特に5年生は国語全体で全国平均を上回る好結果となった。また、3年生と5年生は算数で全国平均を下回っているものの、4年生は国語の「思考・判断・表現」で全国平均を大きく上回る成果を出している。 ・算数の「基礎」は多くの学年で目標値に届かず、2・3年生では「活用」でさらに目標との差が広がる結果となったが、4年生の「活用」では市町村平均を上回るなどの成果も見られる。

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
<ul style="list-style-type: none"> ①読み・書き・計算などの基礎学力や、言語能力育成のための語彙力 ②学習内容を他教科や実生活と関連付けたり、既習の学習をもとにして新たな知識を学習する力 	<ul style="list-style-type: none"> ③「読むこと」「話すこと・聞くこと」の理解力 ④自分の考えを、理由や根拠を裏付けて記述・発表したり、既習事項から考えを広げて、表現する力 	<ul style="list-style-type: none"> ⑤進んで考えたり、粘り強く課題に取り組んだりする力 ⑥筋道を立てた思考に基づき、見通しとふり返しを通して自己の学習を調整し、他者との協働を通じて学びを深め、自己のキャリア形成に活かす力

学力向上のための授業改善

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
<ul style="list-style-type: none"> ○豊かな言語能力を育成するため、読書活動を推進する。関連読書や意味調べなどを通して語彙力を高める。 ○既習事項の知識を使いながら解決する課題の設定をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○順序立てて課題を理解できるよう、授業の流れが明確化された学習過程を構築する。 ○様々な自力解決の方法を提示し、児童自身が選択して、自分の考えに根拠をもって表現できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な友達と関わりながら学習を進め、自己や他者の意見を尊重し、自己有用感を高める。 ○最後まで、あきらめず課題に向き合えるよう、支援の手立てを用意し、自分の考えをもてる授業を展開する。

本校の特色ある取組

- 道徳の時間の充実
- 学習形態の工夫と組織づくり
- 理科専科による高学年の授業
- 毎週水曜日の昼休みの時間「あずまっぴータイム」
- 全学年での一部教科担任制の実施

家庭教育との連携

- 学校の教育活動の見える化
- 家庭学習の取組
- 年間2回の授業参観日と公開日、道徳・外国語授業の公開週間の実施